



春先の鉢花

羽衣ジャスミン

羽衣ジャスミンが鉢物として登場したのは、1978年の事、今から35年前になります。実は生産したのは当社赤塚植物園。担当していたのは何を隠そうこの私（倉林）でした。

今でこそポピュラーな花で、春先になれば日本中の園芸店に出回るこの植物ですが、当時はまだ新品種。社長（現会長）の赤塚充良が、アメリカで直接苗を購入し、日本に持ち込んだのが1976年。もちろんまだ誰も見たことのなかった植物で、開花特性も何も分からないまま、「つる性のジャスミンで面白そう」というだけで栽培を始めました。



日本中に普及させるまでの道のり

生長が早く、挿し芽も簡単に活着するので、あつという間に数は増え、翌年には2万鉢に…。とりあえず、伸びてくるつるを絡めるために、ワイヤーを十文字に組んだ今もポピュラーな仕立て方を工夫しました。ある程度の寒さで花芽が付くことはわかっていたので、無加温のハウスで栽培し、蕾をたくさんつけるところまでは大成功。しかし、暖房のないハウスだったため、早く咲かせることができず、ゴールデンウィークに集中して咲きだし、出荷が大パニックになっ



てしまいました。次々と咲いてくる2万鉢のジャスミン。朝から晩まで出荷作業に追われ、ついには夢の中でも出荷作業（笑）に追われていた記憶は今でも残っています。

今でこそ、開花調整して2月から3月に出荷されてくる「羽衣ジャスミン」ですが、何もせずに自然に開花するのは4〜5月です。そのことすら知らずに栽培していたのですから、今から考えると何とも無謀な話でした。何はともあれ、そのようにして2万鉢が日本中に出荷され、羽衣ジャスミンは大人気の鉢花として急速に普及することになったのです。



羽衣ジャスミンの特徴

学名はジャスミンナム・ポリアンサ。多花性のジャスミンという意味で、おそらくこの仲間では最も多花性の種類でしょう。英名でピンクジャスミンの呼び名もあるように蕾が真っ赤に色づ

くのも大きな特長で、開花すると純白になる花との対比が見事です。もちろん香水のように素晴らしい香りが最大の特徴ですが、強すぎて持て余す人も多いのは事実です。



長く、たくさん花を付けるポイント！

次々と長く花を楽しむためには、日光に当てるのが最も大切なポイントです。現在見えている蕾以外にも、小さな花芽がたくさんあり、条件が良ければそれらが次々と大きくなって開花するので、かなり長期間花が楽しめます。しかし、日が当たらないと、小さな花芽は咲かずに終わってしまうだけでなく蕾が赤く色づかないので、純白の花とのコントラストを楽しむことができません。寒さにも比較的強いので、暖かい日の日中は外に出して十分日光浴をさせてやると、見事な開花が楽しめます。霜に当たると傷んでしまうので、寒い日や夜間は窓辺で楽しむようにしましょう。

来年また花を咲かせるためには、花の後つるを思い切って切り詰め、ひと回り大きい鉢に植え替えます。春から夏の間は水も肥料も充分与えますが、9月以降は肥料を与えないほうが花付きは良くなります。凍らない程度の寒さにあたると花芽が付くので、冬の間にあまり暖かいところに置かないことが花をたくさん付けるポイントです。